

# 令和3年度 浦安市小・中学生生活実態調査 概要版

## □調査目的

本調査は、子どもを取り巻く社会変化や教育情勢と子どもの生活との関連性を客観的に把握し、分析することを通して、本市教育の充実を図るために実施しました。

## □調査期間

令和3年11月22日～令和3年11月28日

## □調査方法

Microsoft Forms による自答式調査

※小学校1, 2年生は保護者同伴の上、各家庭で実施  
小学校3～6年生、中学校1～3年生は学校で実施

## □調査項目

ふだんの生活について／学習について／友だちや家の人との関係について  
地域との関わりについて／電子媒体の扱いについて／安全について  
コロナ対応について／自分自身について

## □対象者の属性

学年	小学生							中学生			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
実施数	845	903	1370	1429	1480	1459	7486	1181	1180	1151	3512
実施率	60.6%	64.4%	102.5%	99.9%	101.9%	93.2%	87.2%	95.1%	94.7%	89.0%	92.9%

※実施率100%以上については、家庭での実施の際、誤って兄弟の学年を入力したものと考えられます。

## □その他

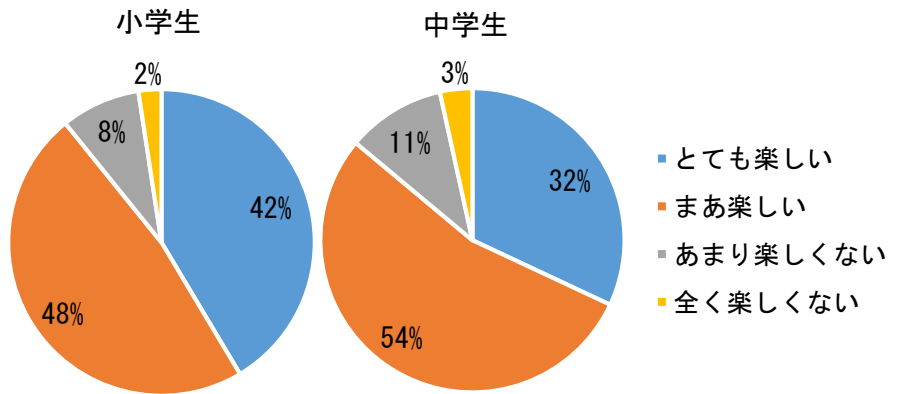
この概要版は、今回の調査結果のうち顕著なものや、前回調査と比較したり経年比較したりして傾向が見られたものを掲載しています。

# 1. ふだんの生活について

Q. 学校に行くのは楽しいですか。

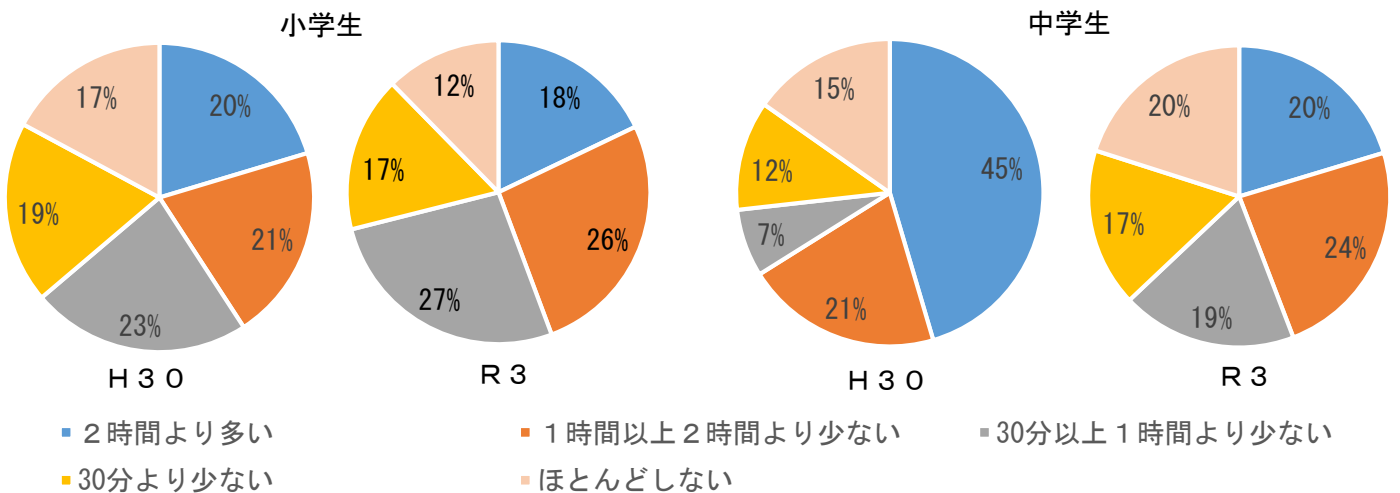
約9割の児童・生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じている。

小・中学生の児童・生徒ともに「学校に行くのが楽しい」（「とても楽しい」+「まあ楽しい」）と回答した割合がおおよそ9割となりました。例年の調査でも同様の回答となっており、大きな変化はありません。



Q. 1日のうち、どのくらい運動をしますか。（学校の体育はのぞきます。）

小学生は感染症対応の影響はなく、前回調査と比べて大きな変化はない。  
中学生は部活動実施に影響を受け、運動時間が減少している。



小学生の1日当たりの運動量は、前回調査と比べて大きな変化はなく、感染症対応の影響は見られませんでした。中学生については、本調査の実施時期が例年の6月から11月になったことにより、部活動の実施時間や回数に影響が出たため、運動量が大幅に減少しました。

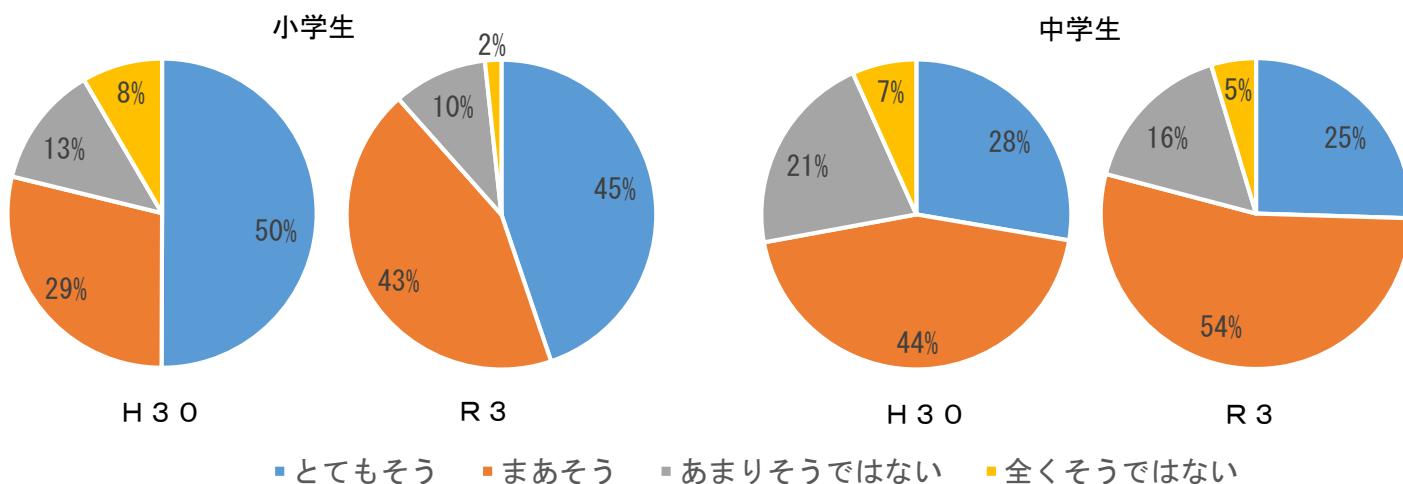
また、中学生は「30分より少ない」「ほとんどしない」の合計が増加しています。感染症対応や部活動の実施状況など、何が要因なのかを見極め、運動する機会の確保のため、適切な対応を取る必要性に迫られています。



## 2. 学習について

Q. パソコンやタブレットを使った学習はわかりやすい。

前回調査に比べ、「パソコンやタブレットを使った学習はわかりやすい」と感じている児童・生徒の割合が増えた。



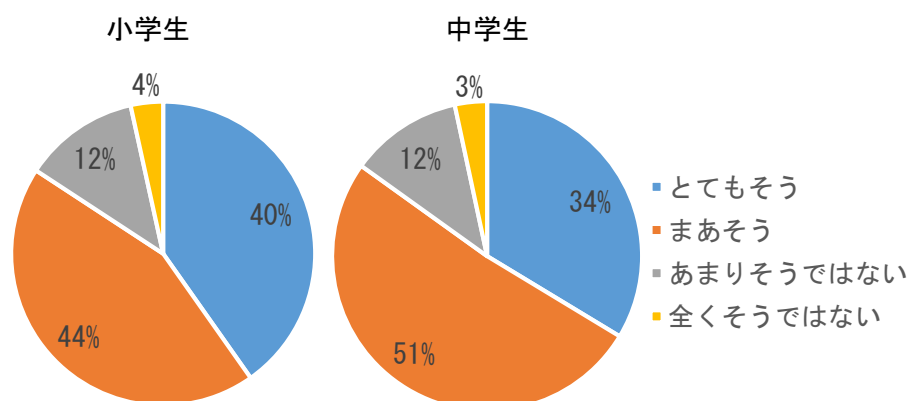
昨年度から始まった「GIGAスクール構想」により、一人一台端末の配備を進めました。その結果、小・中学生ともに、パソコンやタブレットを使った学習をわかりやすく感じている児童・生徒の割合が増えました。また、特に小学生ではわかりやすく感じている割合が大幅に増えました。



Q. 少人数で行う授業はわかりやすい。(R3初出)

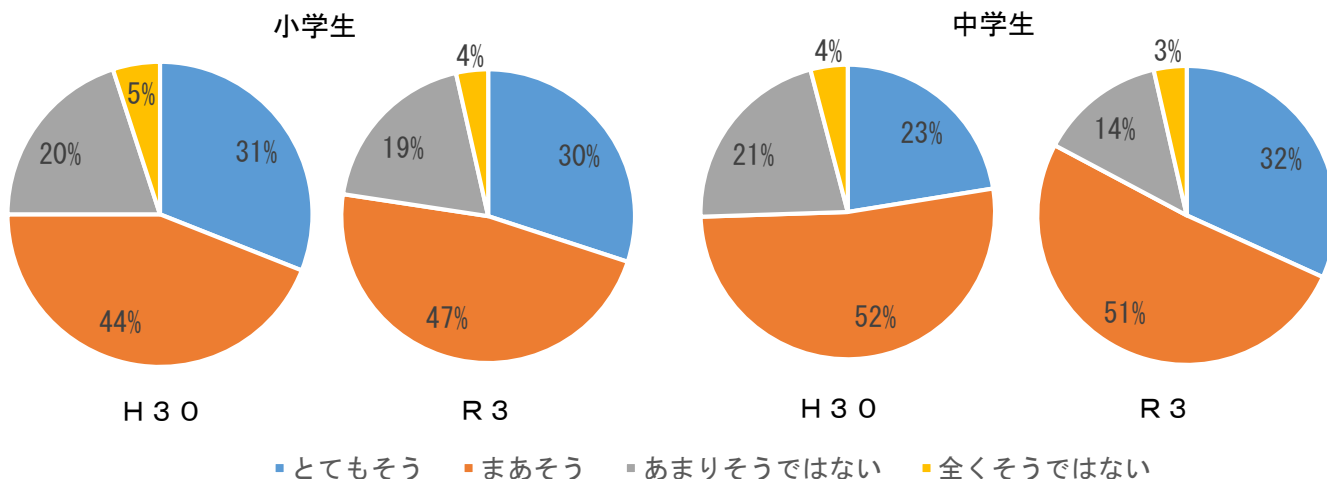
児童・生徒ともに、8割以上が少人数で行う授業をわかりやすいと感じている。

小・中学校では、教科担任制や少人数授業推進のため、学年・教科支援教員の配置を進めています。小・中学生の児童・生徒ともに、8割以上が少人数で行う授業をわかりやすいと感じていることがわかりました。



Q. 話し合う活動で、自分の考えを深めたり広げたりできている。

前回調査に比べて、児童・生徒ともに、「話し合う活動で、自分の考えを深めたり広げたりできている。」と感じている児童・生徒の割合が増えた。



小学校では昨年度、中学校では今年度より新しい学習指導要領のもと教育課程が編成され、教育活動が行われています。小・中学生の児童・生徒ともに「話し合う活動で、自分の考えを深めたり広げたりできている」と感じている児童・生徒の割合が増えました。特に、中学生では、「とてもそう思う」の割合が増えました。

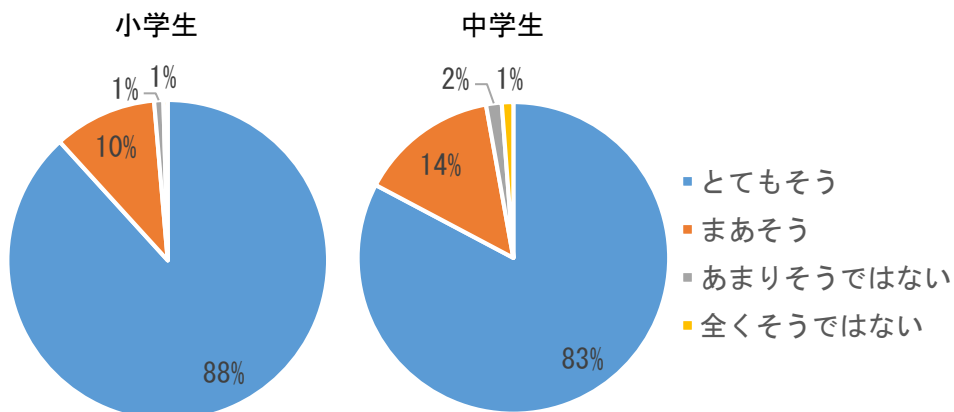


### 3. 友だちや家の人との関係について

Q. いじめは、いけないことだと思う。

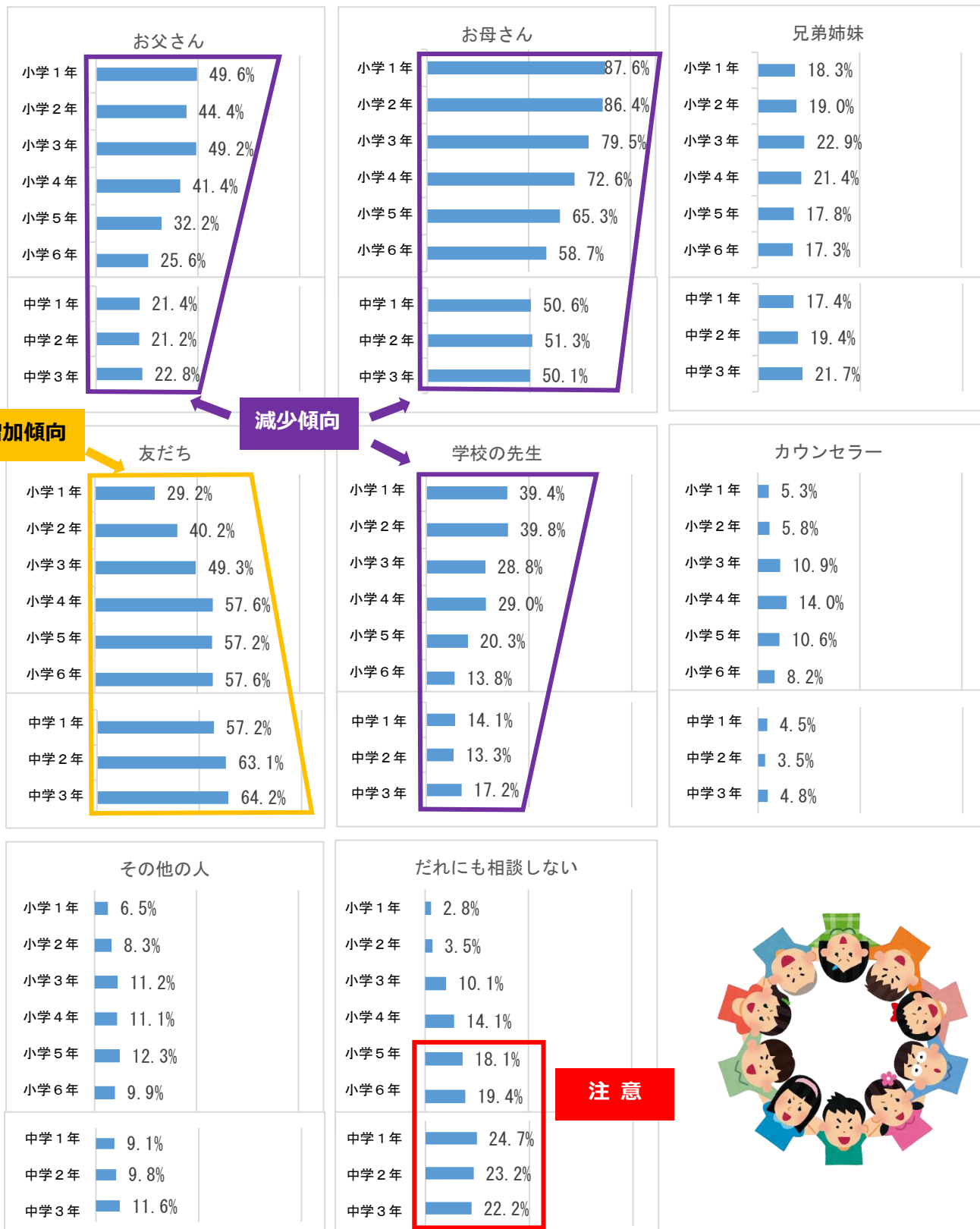
9割以上の児童・生徒がいじめはいけないことだと感じている。

小・中学生の児童・生徒ともに、9割以上がいじめはいけないことだと思っています。前回調査だけでなく、例年の調査で同様の結果が出ています。



Q. なやみごとがあるとき、だれに相談しますか。(複数回答)

どの年代でも、母親に相談すると回答した児童・生徒が多いが、年代が上がるにつれ、「友だちに相談する」、「だれにも相談しない」と回答した児童・生徒の割合が増え、全体に占める割合も増加する。



注意

全体的に、母親や父親、学校の先生など大人に相談することが多く、特に低学年ほど母親に相談することが多いことがわかります。一方、年代が上がるにつれ、友だちに相談することが多くなり、母親をはじめ、父親や学校の先生など大人に相談する割合が減少する傾向にあるようです。中学校への進学を境に、母親と友だちへの相談の割合が逆転しています。また、「だれにも相談しない」と回答している児童・生徒が、小学校高学年から中学生にかけて2割程度いることも注意すべきところです。

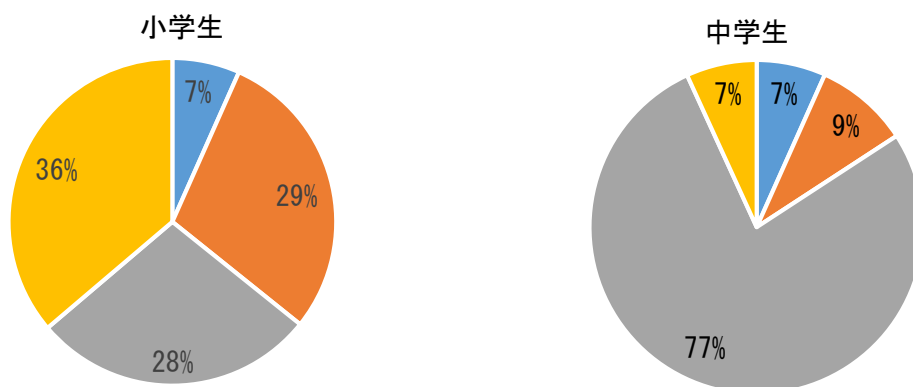
- 年齢が高い子どもほど、友だちへ依存する割合が高くなったり、一人で抱え込む傾向にあったりするようです。したがって、良好な友人関係が子どもたちの安定した生活につながるということがわかります。裏を返せば、学校での友人関係のトラブルが、子どもたちにとって致命的な事態を引き起こすこともあるということです。大人に相談する割合が少なくなったり、誰にも相談しない割合が多くなったりする高学年から中学生にかけては、身近な大人が子どもから発せられる小さなサインを常に見落とさないようにしないといけません。



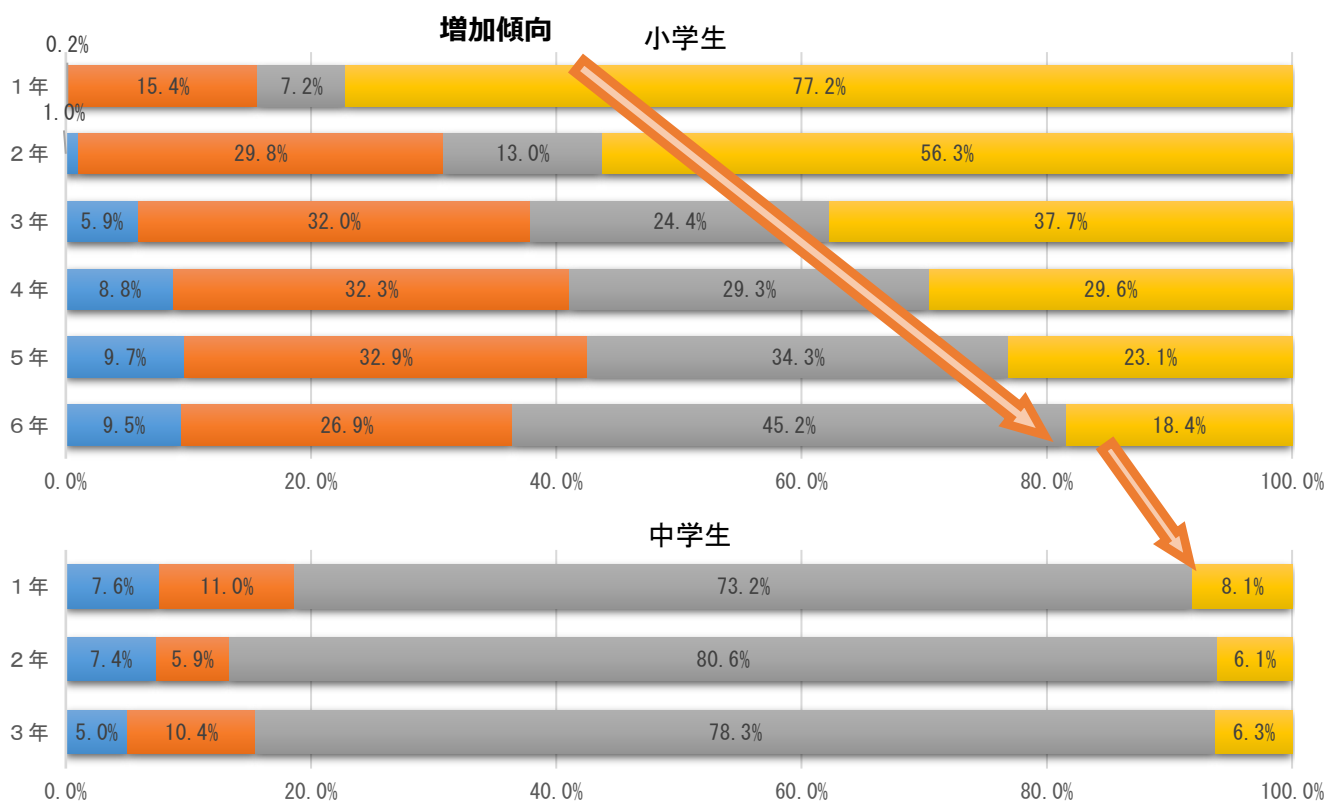
## 4. 電子媒体の扱いについて

Q. 自分の携帯電話やスマートフォンを持っていますか。

年代が上がるにつれ、携帯電話やスマートフォンの所持率が増加している。中学生は、スマートフォンの所持率が占める割合が大幅に増加している。



■両方持っている ■携帯電話を持っている ■スマートフォンを持っている ■どちらも持っていない

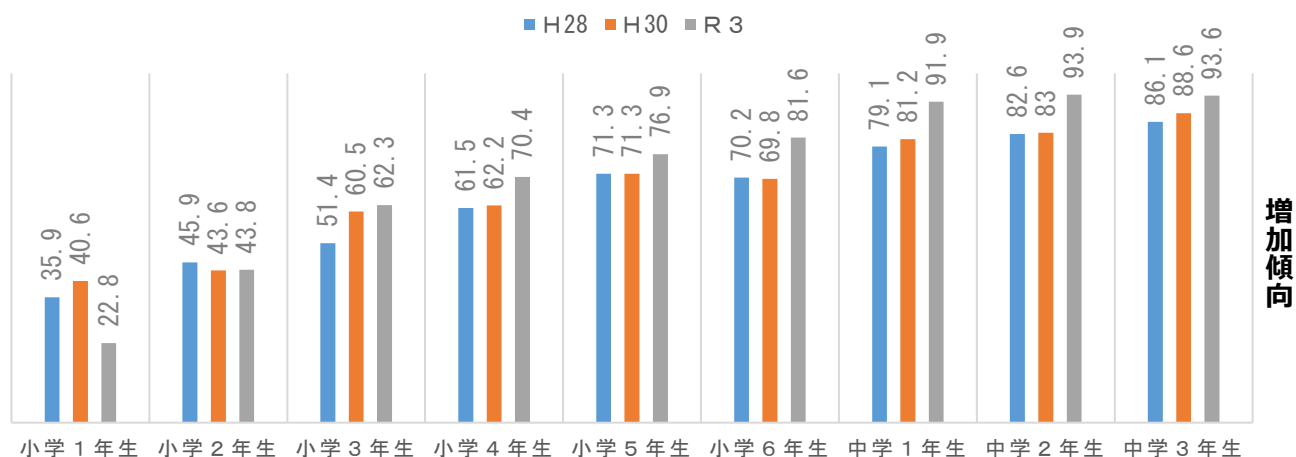


■両方持っている ■携帯電話を持っている ■スマートフォンを持っている ■どちらも持っていない

年代が上がるにつれ、携帯電話やスマートフォンの所持率が増加しています。小学3年生、6年生、中学1年生、が携帯電話やスマートフォンを所持するきっかけの学年となっているようです。特に中学校への進学が、スマートフォンを所持するタイミングとして多いことがわかります。

## 携帯電話・スマートフォンの所持率の経年比較

単位：％

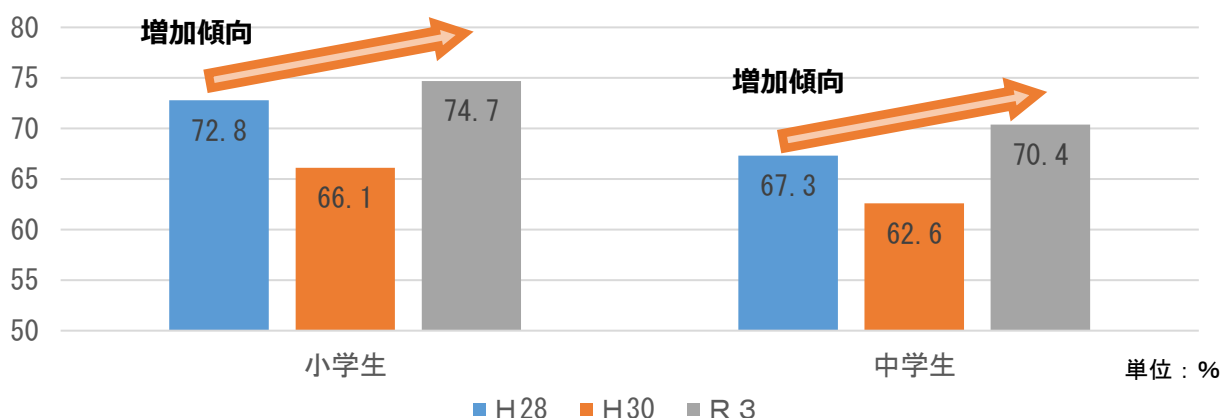


過去の調査と比較すると、携帯電話やスマートフォンの所持率は年々増加傾向にあり、子どもたちが外部と接する機会も低年齢化していると考えられます。大人が、意識して子どもたちを指導したり見守ったりすることが必要であり、喫緊の課題でもあることがわかります。

Q. 家では、ネットやメール、携帯電話やスマートフォンの使い方について、ルールが決まっていますか。

携帯電話やスマートフォンの所持率の上昇とともに、使用に関するルールの設定率も増加している。

### ネット、メール、携帯電話、スマートフォンなどのルール設定率の経年比較



携帯電話やスマートフォンを持つことは、外部と接触する機会を増やすことになり、それと同時に危うい場面に遭遇する可能性も高まります。ルールを設定した上で、子どもたちに与えている家庭が増えてきていることがわかります。

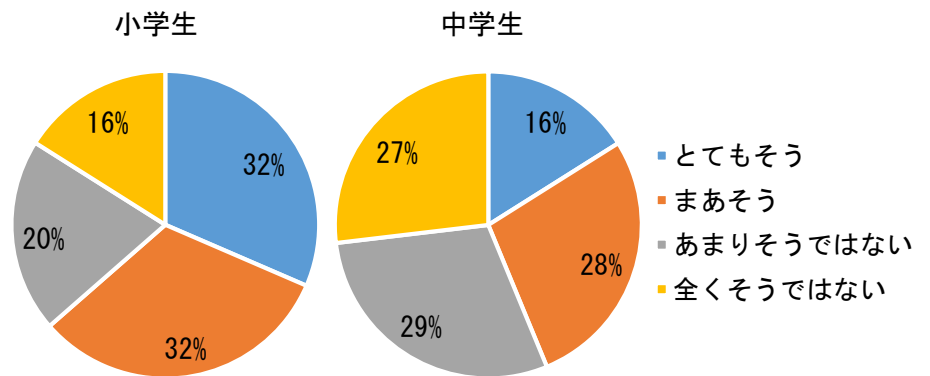


## 5. 感染症対応について（R3初出）

Q. 学校が休校（学級閉鎖）になることについて不安を感じる。

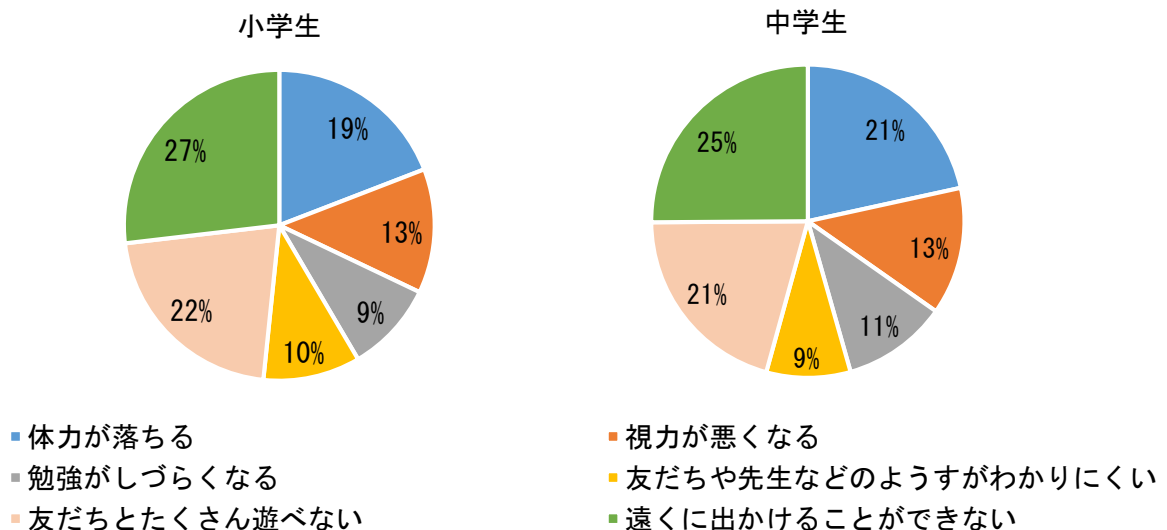
中学生より小学生の方が、感染症の影響で、学校が休校等になることについて不安を感じている割合が高い。

小学生の方が中学生より、休校等に対して不安を感じている割合が高いことがわかります。小学生の方が大人の手助けを必要とするため、不安が大きいことが想定されます。



Q. 新しい生活様式を続けていて心配なことはなんですか。

新しい生活様式での生活が続くことで、小・中学生ともに身体的な面の不安と外出できないことへの不満を感じている。

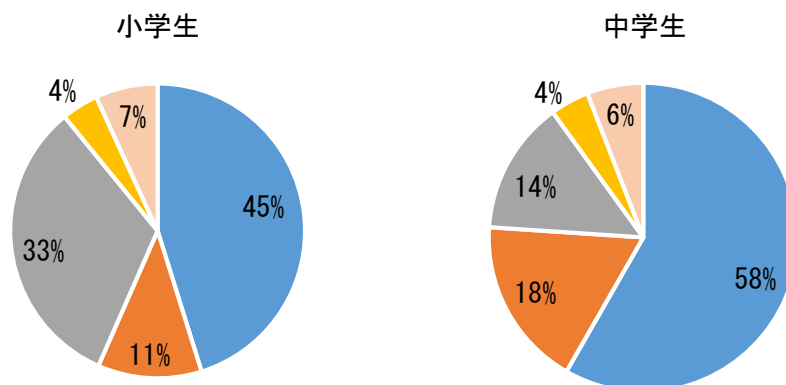


新しい生活様式を続けることで、今までできていたことが同じようにならなくなることもあります。それらについてどのような不安があるか質問したところ、小・中学生ともに同じような結果となりました。「体力が落ちる」、「友だちとたくさん遊べない」、「遠くに出かけることができない」の割合が高いですが、他の回答も近い割合となっており、不安要素は多岐にわたっていることがわかります。



Q. 元の生活にもどったときに、一番やりたいことはなんですか。

小・中学生ともに、気兼ねなく友だちと遊んだりかかわったりすることを望んでいる。また、中学生については、学校行事を楽しみにしている割合が高い。



- 友だちと思いっきり遊ぶ
- 友だちと話しながら給食を食べる
- 制限なく体育や音楽などの学習を行う
- 学校の行事
- 他の人（他の学年の人、地域の人など）との交流

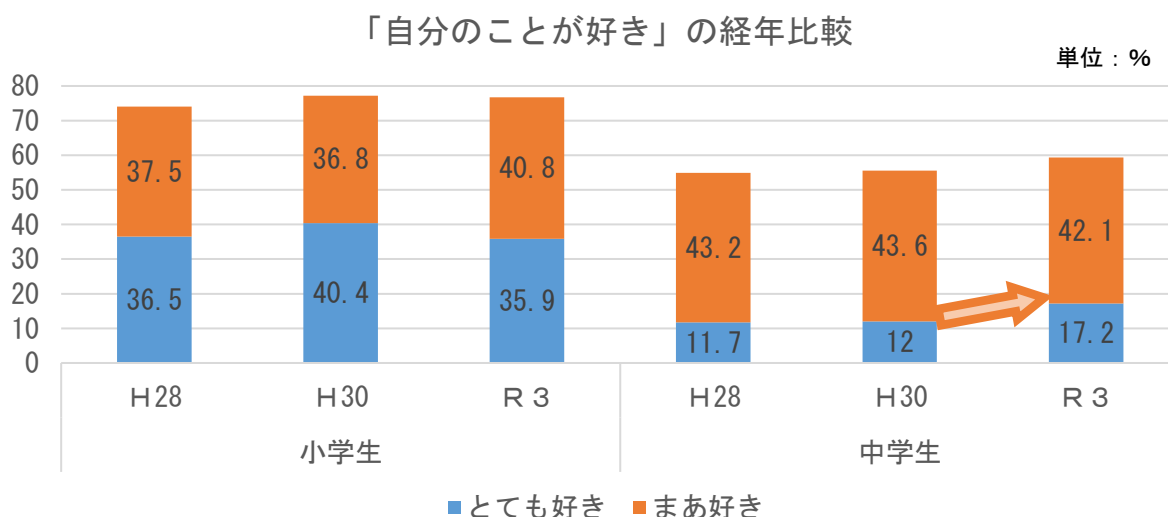
小・中学生ともに、元の生活に戻った時に、一番やりたいことは「友だちと思いっきり遊ぶ」でした。また、小学生は次いで「友だちと話しながら給食を食べる」の割合が高かったです。子どもたちは、制限のない友だちとのコミュニケーションを望んでいることがわかります。中学生は、学校行事の実施を待ち望んでいることがわかります。校外学習や宿泊学習の延期や縮小が影響しているものと思われます。



## 6. 自分自身について

Q. 自分のことが好きですか。

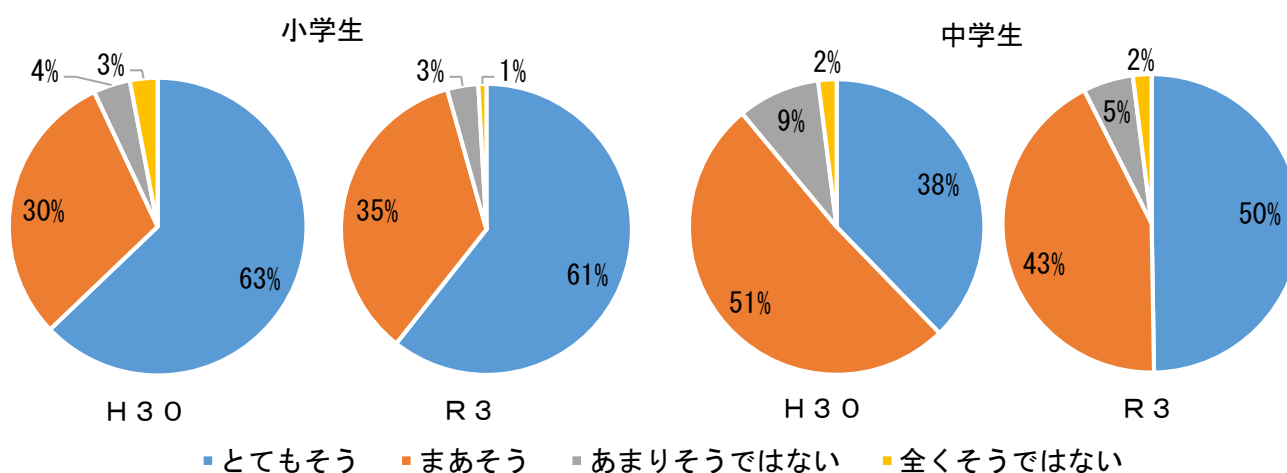
小学校の児童についてはあまり変化が見られないが、中学生については増加の傾向が見られる。



小学生については、「自分のことが好き」だと感じている児童の数について変化はありませんが、中学生については、少しずつ増加傾向が見られます。特に今回の調査では、「とても好き」の割合が増えました。

Q. 自分やほかの人を大切にしている。

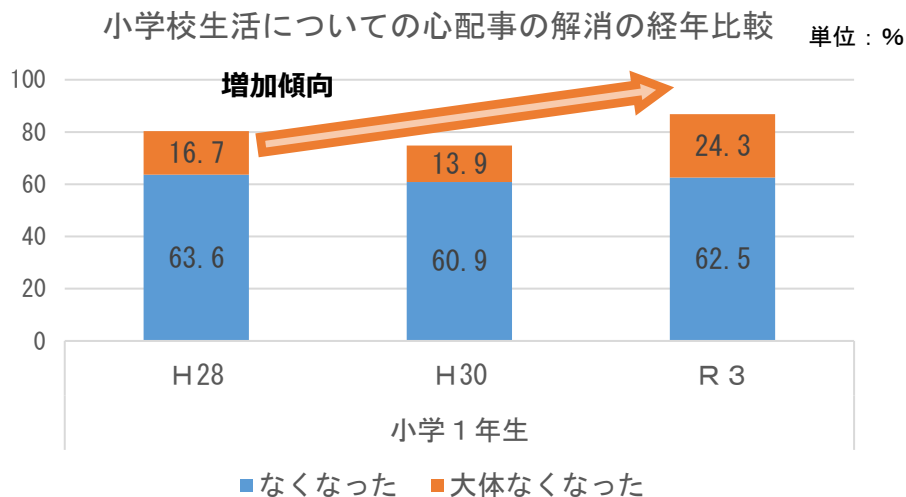
「自分やほかの人を大切にしている」に対して、「とてもそう」と回答している中学生の生徒の割合が、前回調査より大幅に増えた。



前回調査と比べて、小学生については変化はありませんが、中学生については、「自分やほかの人を大切にしている」という質問に対して、「とてもそう」と回答している割合が大幅に増えました。

Q. 幼稚園・こども園・保育園のころ、小学校生活について、心配していたことは、今、なくなりましたか。(小学1年生のみ回答)

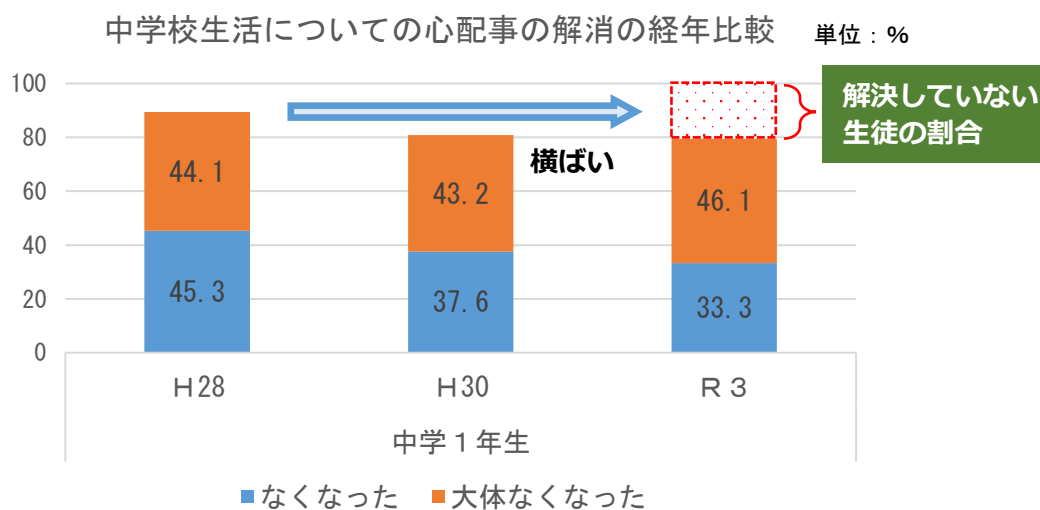
年長の子どもたちが抱く進学への心配事の解消率は増加傾向が見られる。



年長の子どもたちは進学に際して多くの心配事を抱えています。円滑な学校生活を送るためにも、一刻も早い心配事の解消が望まれます。経年比較してみると、心配事の解消率については、実施時期の影響も考えられますが、増加傾向が見られました。

Q. 小学生のころ、中学校生活について不安や心配に感じていたことは、今、なくなりましたか。

中学校1年生について、まだ心配事が解決していない生徒が2割いる。



小学6年生も、中学に向けて心配事を抱えながら進学しています。心配事の解消率を経年で見ると、大幅な変化はありませんでした。ただし、およそ2割の生徒が、解決されない不安や心配を抱えながら生活していることがわかります。それぞれの子供に寄り添った支援が必要なことがわかります。